

スクミリンゴガイ用忌避材と忌避材を利用した産卵抑制技術

スクミリンゴガイの河川・水路における産卵を抑制するため、皮膜成型樹脂に質量比20%の銅粉(直径約 $15\mu\text{m}$)を混合したスクミリンゴガイ用忌避材を開発し、現地実証試験においてスクミリンゴガイの産卵をほぼ抑制できることを明らかにした。2010年度市販化予定。特開2008-137959



図1 忌避材の有(両端)無(中央)とスクミリンゴガイの産卵状況(図2のP2地点付近)

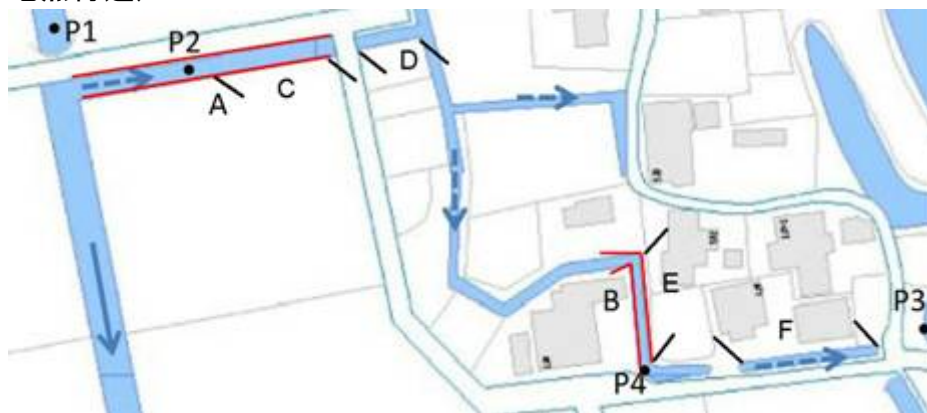


図2 現地試験の概要

表1 卵塊密度(忌避材塗布区は■の部分)

調査時期	C	D	E	F
5月21日	1.4	3.4	6.6	3
6月18日	8	1.2	4	5
7月20日	2.6	1.6	4	2.4
8月18日	0	3.8	0	1.2
9月18日	0	1.2	0	1.6
10月19日	0	1	0	1.6

注1) 壁面1m当たりの密度

注2) C,D,E,Fは図2に示す調査地点。

注3) 7月27日に忌避材をC、E区に塗布した。

注1) 青い部分は水路。矢印実線は主な用水の流れ。矢印点線部分は通常流れが無く増水時のみ流れる。

注2) 赤い線は忌避材塗布部分。Aは60m、Bは30m、塗布幅は約50cm。

注3) P1~P4は銅濃度調査地点。

注4) 本忌避材を塗布した水路の用水の銅濃度について、H21年度の現地試験(図2)の水路の用水の調査においては、農業用水基準(Cu:0.02mg/L)を超える濃度は検出されていない。